

目次

- 青木永太郎 死亡 [四年四月一日] 02
- 新潟縣民政党支部春期大会 [四年五月六日] 02
- 社会民衆党新潟縣支部発会式 [四年五月七日] 02
- 佐渡青年政治研究会の総会 [四年六月二十七日] 02
- 第二十八次濱口内閣の成立 [四年七月三日] 02
- 中川健蔵の東京府知事 [四年七月三日] 03
- 政友会新潟縣支部の秋期総会 [四年八月十八日] 03
- 佐渡民政倶楽部の発会式 [四年九月二日] 03
- 民政党の政談演説会 [四年八月三十一日] 04
- 佐渡公政会の秋期総会 [四年十月十六日] 04
- 佐渡政友倶楽部の秋季大会 [四年十月十八日] 05
- 政友会の演説会 [四年十月十七日] 06
- 社会民衆党の郡内遊説 [四年十月十九日] 09
- 本間一松の死亡 [四年十一月七日] 10
- 北吟吉等愛國大衆党の組織 [四年十一月] 10
- 社会民衆党佐渡支部発会式 [四年十二月十五日] 10
- 日本大衆党の演説会 [四年十月二十七日] 12
- 農政革新会の演説 [五年一月十一日] 12
- 第五十七期議会の解散 [五年一月二十一日] 12
- 民政党の立候補 [五年二月十日] 12
- 政友会の陣容 [五年一月二十九日] 13
- 無産党の態度 [五年二月二十日] 14
- 佐渡立憲民衆党の分裂 [五年二月六日] 15
- 第十七回衆議院議員選挙 [五年二月二十日] 15
- 村山浪次郎、田中文字大臣を告発す [五年二月十八日] 19
- 牧野野郎の当選と北吟吉の次点 [五年二月二十日] 20
- 児玉竜太郎、羽入高等課長を告訴す [五年三月二十二日] 20
- 森守蔵、野沢卯市の当選無効を提起す [五年三月二十七日] 20
- 新潟警察署長助川某の怪文書 [五年] 21
- 石田芳太郎の選挙違反 [五年四月十日] 23
- 山本悌二郎、政友会本部の筆頭総務となる [五年五月十六日] 24
- 縣會議員の補欠選挙 [五年七月五日] 24
- 佐渡日曜新聞 [五年六月三十日] 26
- 佐渡毎日新聞 [五年七月一日] 26
- 日本大衆党佐渡支部 [五年八月二十四日] 27
- 大衆党の演説会 [五年八月二十三日] 28
- 大衆党佐渡支部の新潟縣知事に要求書を出す [五年九月三十日] 28
- 山本悌二郎の縣支部長重任 [五年十月二十三日] 29

- 佐渡政友倶楽部の秋期大会 [五年十月二十三日] 29
- 山本、政友倶楽部総裁の辞任 [五年十月二十八日] 30
- 政友倶楽部の役員追加 [五年十二月二十四日] 31

佐渡政党史稿 昭政党之卷 第二号 [昭和四年四月から五年十二月迄]

○昭和四年

- 青木永太郎 死亡 [四年四月一日]

立憲政友会佐渡倶楽部総務は四月一日午前十一時四十分 病を以て死亡したるを以て五日畑野村小倉の本邸にて仏式を以て葬儀を行った

- 新潟縣民政党支部春期大会 [四年五月六日]

新潟縣民政党支部にては五月六日午後一時より新潟劇場に於て春期大会を開会し本部よりは菅野通敬、頼母木桂吉、小山松濤、増田義一、等を迎へ田中内閣打倒熱に燃えたる野党民政党の地方黨員は大に氣勢をあげ朝来続々会場さして押寄せ正午已に三千の大盛況を呈した、先づ支部大会に入り宣言、決議を可決し諸般の議事を終了したる後午後三時より政談演説会に移り

地租移譲反對論	菅野通敬
小選挙区制還元改悪論	頼母木桂吉
自作農案に對する批判	小山松濤

など何れも聴衆大喝采裡に長口舌を揮ひしが第二会場たる沼垂港座も一千余名の聴衆にて盛会であった

- 社会民衆党新潟縣支部発会式 [四年五月七日]

新潟の弁護士 長谷川寛等一派が新潟民友会なる団体を組織したが 其後予て其主張に共鳴せる社会民衆党に加盟し新潟大明座に於て社会民衆党新潟市支部の発会式を挙行し 県下各地に亘り支部を組織すること、なし 各郡に準備会の結成を見るに至りたるを以て五月七日新潟文楽座に於て社会民衆党新潟縣支部の発会式を挙行し宣言、綱領、規約及役員を決定発表した
本郡にても支部準備会を設立したが両津町の北兼吉（榎カ）は縣支部の執行委員に加はっていた

- 佐渡青年政治研究会の総会 [四年六月二十七日]

佐渡青年政治研究会にては六月二十七日午後二時より河原田町に於て代議士 岩切重雄を聘し総会を開催すること、なつたが此機会を利用し 二十六日には赤泊及羽茂、二十七日には総会后河原田、及両津、二十八日には新穂、等に於て時局批判の演説会を催ふし 二十七日午後九時より河原田町に於て大懇親会を催ふすことになった（が其実行等は不明である）

- 第二十八次濱口内閣の成立 [四年七月三日]

田中内閣は第五十六期議会に於て民政党を脱したる床次竹二郎等の新党倶楽部と提携して重要政策とした地租及營業稅収益稅の地方移譲法案は議會を通過せしめたるも所謂 満州某重大事件に關して七月二日

遂に総辞職を行った 茲に於て後継内閣組織の大命は民政党総裁 濱口雄幸に降下し其内閣は三日成立した

内閣総理大臣	濱口雄幸	外務大臣	幣原喜十郎
内務大臣	安達謙蔵	大蔵大臣	井上準之助
陸軍大臣	宇垣一成	海軍大臣	財部 彪
司法大臣	渡辺千冬	文部大臣	小橋一太
農林大臣	町田忠太	商工大臣	俵 孫一
通信大臣	小泉又次郎	鉄道大臣	江木 翼

田中内閣の瓦解するや我が山本悌二郎の農林大臣を罷めしことは云ふまでもないことだが彼れが在職二年間気鋭果敢なる手腕を以て未曾有の尨大なる農林予算を獲得して従来餘りに世人より顧みられざりし農林行政の上に一新紀元を画し 同省をして重きを為さしむるに至らしめたることは実に彼れが力である

●中川健蔵の東京府知事 [四年七月三日]

七月三日濱口民政党内閣の成立するや三十四府縣に渉る地方官の更迭を行ひしが本郡の出身の中川健蔵は曩に北海道長官にて田中政友会内閣の折休職となりしが今回東京府知事に任ぜられた

●政友会新潟縣支部の秋期総会 [四年八月十八日]

政友会新潟縣支部にては本部より粕谷義三等を迎へ 八月十八日午後二時より新潟行形亭に於て秋季大会を開き支部長 山本悌二郎を始め田辺熊一、加藤知正、高橋金次郎、山田又司、武田総三郎の各代議士、縣會議長、松木弘以下八百余名出席し 山際敬雄の開会の挨拶ありて宣言決議を満場一致可決し山本の中央政情報告、粕谷の演説の外田辺其他の所感演説あり倒閣の意気天に沖する概を示し 引続き大懇親会に移つたが決議中本縣知事 三松武夫糾弾の一項の含まれて居た事が一般に注目された

- 一、新潟縣知事 三松武夫ハ餘リニ地方団体ノ確定予算ニ変更ヲ加ヘテ自治権ヲ破壊シ又職權ヲ悪用シテ人權ヲ蹂躪シ甚シキニ至ツテハ威嚇ト利益トヲ以テ交々縣會議員ヲ誘惑セルノ事實歴々トシテ蔽フベカラズ 當支部ハ断ジテ三松知事ノ焰天ノ罪惡ヲ許ス能ハズ飽マデ彼レノ非違ヲ糾弾シテ之ヲ排斥ス

●佐渡民政倶楽部の発会式 [四年九月二日]

民政党佐渡倶楽部にては九月二日午後七時より両津町劇場に於て本部特派員代議士 紫安新九郎、遊説部幹事 関野隆二等を迎へて挙行したが閉会后政談演説会があるとの事なりしを以て入場者千数百名に達し 実に近来希有の盛会であつた、発会式は羽豆太三次 開会の挨拶を述べ相田榮蔵を議長として左の宣言、決議を可決し役員は議長の指名にて左の通り決定した

宣 言

夫レ政治ハ国運隆盛ノ基ナリ 田中政友会内閣成立スルヤ党利党略ヲ回ルニ (氏名落字ナキカ) 暴政悪政至ラザルナク、外国威ヲ失墜シ内庶政紊亂綱紀頹廢シ帝國ノ将来為メニ憂フベキヲ思ハシメタリ 幸ニシテ輿論ノカニ因リ國民怨府ト化セル田中内閣ハ未曾有ノ汚点ヲ貽シテ遂ニ瓦解ノ止ムナキニ至リ 國民歡呼ノ裡ニ吾等ガ待望セル濱口内閣ハ出現セリ

今ヤ田中内閣ノ暴政ノ後ヲ受ケテ邦家ノ前途頗ル多事特ニ經濟界ノ現状ニ至リテハ正ニ国難ト云フヲ得ベク茲ニ濱口内閣最大ノ使命ハ嚴ハズ (?) 濱口内閣起ツニ非ザレバ此国難ヲ如何セン 吾等ハ一層結束ヲ鞏固ニシ内閣諸侯ニ後顧ノ憂ナカラシメ以テ国策ノ遂行ニ遺憾ナカラシムルト共ニ他面反對党

ノ妄動ヲ嚴に監視シ内治ト外交ニ我民政党ノ主張ヲ實現シ国利民福ノ増進ヲ図ルヲ期ス
敢テ宣言ス

決 議

- 一、党勢ニ捉ハレズ飽マデ國家本位ニ立脚セル濱口内閣ヲ翼賛シ其政綱政策ヲ實現セシメンコトヲ期ス
- 一、縣政ニ於ケル党争ノ弊ヲ矯正シ縣民ノ福利ヲ増進センコトヲ期ス
- 一、地方行政ノ刷新ヲ計リ自治ノ健全ナル發達ヲ期ス
- 一、佐渡郡道路網ノ實現ヲ期ス
- 一、農村漁業村ノ振興ヲ期ス

役 員

顧 問 野沢卯市
総 務 土屋六右衛門 河原作一 相田栄蔵
羽豆太三次 山田貫一 風間清太郎
松栄俊三 本間和平 山西藤左衛門
幹事長 浅香 寛
幹 事 本間胎蔵 伊藤藤右衛門 松瀬教五郎
塚原 徹 中山直治 石塚一作
川内精一郎 中山幸作 角坂二三次
児玉宗次 菊地彦次

右発会式終つて同所にて政談演説会を開きしが

開会の辞 相田栄蔵
國民奮起の秋 星川豊彦
現内閣の本領 紫安新九郎

の演題の下に現下の窮迫せる国状を説き國民の覚醒を高唱し濱口内閣の主義主張を鮮明にして多大の感銘を與へた

●民政党の政談演説会 [四年八月三十一日]

民政党総務 紫安新九郎、同代議士 星川豊彦の一行は九月二日舉行さる、佐渡民政倶楽部の発会式を好機として八月三十一日渡来し

八月三十一日午後一時	相川町	相川館
九月一日 午後一時	新町	新盛座
同 午後七時	小木町	琴平座
九月二日 午後一時	河原田町	入江座
同 午後八時	両津町	劇 場

の各地にて政談演説を為したるが演題論旨は大體前項と同じかりし 而して右終るや三日両津港より出帆帰京した

●佐渡公政会の秋期総会 [四年十月十六日]

立憲佐渡公政会にては十月十六日午前十時より新町の吉田旅館に秋期大会を開催せるに百六十三名の出席にて右近弥吉の開会の辞ありて渋谷四郎次を座長に推し 宣言、政策を決議し 会頭石田芳太郎の「時局

批判及農村救済の急務なる所以」についての演説を為し終つて同館にて懇親会を催ふした

宣 言

我党茲ニ秋季大会ヲ開催スルニ當リ其所信ヲ汎ク天下ニ宣ス

曩ニ聲明セル如ク我党ノ主義綱領ハ皇室中心、國家農村多数民衆本位タルコトハ論ヲ俟タザルモ我國既成政党ノ主義政策ヲ觀ルニ 其言フ処何レモ美辭麗句ヲ飾ッテ直ニ國民生活ニ立脚セズ普選結果ノ根本義ヲ忘レ党利党略以外ニ何物ヲモ考ヘザル彼レ等ノ徒ハ益々國民ノ反感ヲ買ヒ今ハ到底匡救ノ餘地ヲ存セザル真ニ悲シムベキ限リニアラズヤ

殊ニ社會風教思想善導綱紀肅正ニ至リテハ買勳疑獄収賄等ト枚挙ニ遑アラザル大罪惡ガ國民精神ニ反響ナシ俱ニ断ジテ糾弾ナサザルベカラズ

翻ッテ眼ヲ轉ジ我々農村ヲ見シカ百年一日ノ如ク朝星暮月ト文字通り勞苦精勵ナセドモ益々疲弊困窮ナリ 此俟放任センカ破滅ヨリ途ナキ哀レナ現状ニ喘ギツヽアリ 之レハ学者為政家ニ頼ル他力主義ヲ排シ 我々農村ノ自力覚醒發奮ニ依リ研究善策ナシ、立チ行カネバ行クマデノ農村經濟ヲ主トシテ断行スベキニアルナリ 是レ即チ我党秋期大会ヲ開キ一致團結ニヨリ目的ノ遂行ニ邁進スル其所以 茲ニ存セリ

政 策

- 一、農村道路交通機關ノ完成ヲ期ス
- 一、自轉車及馬車税ノ撤廢ヲ期ス
- 一、米穀及諸物価ノ調節ヲ期ス
- 一、人類愛ノ見地ヨリ公娼ノ廢止ヲ期ス

●佐渡政友倶楽部の秋季大会 [四年十月十八日]

政友会佐渡倶楽部にては前農林相 山本悌二郎、及代議士 原惣兵衛、武田徳三郎、加藤知正、山田又司其他を迎へ 十月十八日午前十時より金沢村農会堂にて秋期大会を開く 此日集まる者九百余名 名畑清次開会の辞を述べ 本間一松を座長として宣言、決議を可決し役員選挙を行ひたる後 山本は時餘に涉り現内閣の批政を指摘し半白の頭に顔面心地紅潮しつゝ、悠揚迫らずして而も憂国の赤心に燃え立つ熱弁は咳唾自ら玉を成し言々聴く者の胸底を抉るものあり 黨員は熱狂して固く結束を誓ひ戦はずして野党の意氣已に天に冲するの概あり 最後に児玉竜太郎の県下政情に對する報告あり 近来にない盛況裡に閉会した

宣 言

集団ヲ以テ輿論政治ニ終始スルモノ何レノ時カ緊張ヲ要セザラン 殊ニ我立憲政友会剋下ノ状態ガ此感ヲ深ラシム

推フニ過去二年間我党總裁田中男内閣ノ首班ニ立ツヤ黨員各全力ヲ尽シテ之ヲ援助シ以テ我党多年ノ徑論国策ヲ実行シ国運ノ新生面ヲ開クニ汲々タルモノアリシト雖モ反對党ハ常ニ之ヲ阻害シ所信ノ半バヲ行フニ過ギズ

田中内閣掛冠野ニ下ル後ヲ受ケテ濱口氏政權ヲ握ルヤ無謀ナル緊縮ヲ高調シ憲法ヲ蹂躪シテ議會ヲ無視シ予算ヲ猥ニ更改シ以テ国政ヲ誤ラムトス 今ニシテ之ヲ矯メズバ國家大患ヲ醸サン 我党敢然起ッテ之ニ當ラントスル時不幸田中總裁ノ物故ニ逢フ 此時ニ當リテ耆老犬養氏身ヲ挺して立チ新タニ總裁トナリ至誠ヲ國家ノ為ニ傾尽セントス 我党ハ茲ニ新總裁ヲ戴キ陣容ヲ整ヘ来ルベキ総選挙ニ臨ミー 戦大口ヲ博ス以テ現内閣ノ秕政ヲ排除セントス 是レ我党ノ國家民人ニ對スル本来ノ責任ナリ 秋期大会ニ際シ敢テ之ヲ宣ス

決 議

- 一、越佐航路ノ改善發達ヲ期ス
- 一、沿岸道路ノ完成ヲ期ス
- 一、水産及農業ニ對スル積極的施設ノ完備ヲ期ス

役員

総裁 山本悌二郎
 顧問 本間一松 齋藤長三
 総務 高野宏策 本間乙吉 本間瀬平
 柴田 繁 神主甚久郎 寺島善四郎
 中川熊藏
 会計主任 名畑清次
 幹事長 嵐城治作
 幹事 加藤平藏 平田泰藏 加藤芳太郎 白木栄作
 関川善次郎 池 猪助 長野三吉 荷上與六
 吉川五右衛門 菊地甚平 佐藤貞市 坪根舒治
 外内周藏 菊池市左衛門 高橋確太郎 椎 龜治
 金田音松 樋口吉次郎 榎武右衛門 本間龜藏
 丸家良藏 立野重利 石見平三郎
 相談役 伊藤龜太郎 石井佐助 児玉茂十郎 中川伊右衛門
 本間琢斎 森 守藏 酒井直一 北条 欽
 小菅鉄五郎 伊藤円藏 鈴木芳太 尾畑與三作
 大地栄藏 白杵寿八 佐藤嘉十郎 葛西 肇
 葛原吾市 後藤茂三郎 甲斐二十四郎 白井清太郎
 佐藤角藏 水谷松次 木下永藏 鳥井嘉藏
 河原治一 後藤五郎右衛門 渡辺茂太郎 本間茂太郎
 余吾篤太郎 中川十左衛門 北脇満三 渡辺仁平
 坂野大藏 小池竜藏 北利三郎 吉田久満次
 後藤惣作 市橋 寛 金子吉太郎 矢部茂作
 水本五八 梶井五郎左衛門 藤谷善藏 大辻国藏
 小杉伊之助

●政友会の演説会〔四年十月十七日〕

山本悌二郎は十月十八日の佐渡倶楽部秋季大会に臨むべく帰省するを幸ひとして郡内に一大遊説を試むべく代議士 原惣平衛及本縣代議士 加藤知正、武田徳五郎、山田又司、縣會議員 石田善佐、其他を帯同し八月十六日東京上野を夜行出發し 十七日午後渡来して午後七時より両津町劇場にて皮切りの演説会を開いたが我が佐渡の生んだ当代の人傑前農林大臣の風貌に接せんものと詰め掛けたる聴衆無慮二千余名文字通り立錐の餘地なし誠に此人傑を迎ふるにフサワシイ異常なる緊張的情景を呈したが此緊張裡に割れるが如き拍手に迎へられて登壇し二時間に渉る大獅子吼を試み 金解禁、公債政策の二方面より其該博なる徑論を傾けて悠揚迫らず沈着にして而も熱烈火の如き雄弁は正に聴衆を魅了し去つたが如き感あつたが演説終るや車を飛ばせて真野の別邸に入った

十八日は金沢村農会堂に於ける佐渡政友倶楽部の秋季大会に臨みて夜は同地にて演説を為し十九日は午

後一時より金沢村、七時より相川町の夫を終へたる後は更に佐渡の弁士を加へて二隊に編成して二十日より二十二日迄十二ヶ町村を遊説し二十三日には両隊合して午後一時より河崎村、七時より、新穂村に政談演説会を催ふして二十四日退郡した

甲隊			乙隊		
日割	午後一時より	同七時より	日割	午後一時より	同七時より
二十日	高千村	外海府村	二十日	河原田町	真野村
二十一日	内海府村	加茂村	二十一日	小木町	羽茂村
二十二日	水津村	岩首村	二十二日	赤泊村	両津町

十九日相川の演説の終了後の歓迎会席上にて小澤直吉は左の二句を高唱した

佐渡が生んだる大人傑を延ばすとかまで延ばしたい

延ばすとかまで延ばして見るは共に団結常にある

彼れが両津劇場第一聲の大獅子吼は満場を傾聴せしめたが已に故人となりし其比人の抱負を知るに足るものなれば長くはなるけれ共 爰処に掲ぐる事とした、

田中内閣は本年七月更迭し組織以来二年三ヶ月の間故田中首相は當國出身の私に對しては郡民諸君が私を熱援して下されたお陰で特に重要視され種々施政の上に特権を認めてくれたのであります 然るに私の微力思ふ事の十の一をも為し遂げること出来なかつた事を私は衷心慚愧するものであります、併しながら私一己としては自己の万全を尽して邦國の爲めに復郷土の爲尽すべきを尽した事を自ら顧みて喜んでゐる次第であります、然るに今回濱口内閣が成立すると共に此の我等が爲した総ての計画に對し全然反対の見地に立たれ 全ての破壊を敢てされたのは邦家の爲め亦私個人として誠に残念な所ありますが今之れ等過去の事について語る事は詮なき事でありますから一切之れに触れず将来の政治について私の意見を申述べたいと思ふのであります

但し前以て申上げて置きたい事は今夜は単なる政談演説として徒らに反対内閣を罵倒する事を止めて即ち私が政友会の黨員であるといふ立場から離れて一個の政治家若しくは学徒といふ見地からして話しを致すのでありますから此点を特に御諒解を願いたいのであります 何故ならば國家的重大問題は直接諸君の頭上に振り掛る雨であり火の粉であつて之を振り払ふ事は苟くも政治に携はる私共の責務といふ觀念から私は憂國の赤心に燃えて諸君に訴へなければならぬと思ふからであります

抑も現内閣は成立以来全力を尽して公私經濟の緊縮節約即ち公債整理 金解禁といふ事を励行して居ます 私は今晩は此の民政党内閣の唯一の政策緊縮節約を以て公債整理金解禁を主張するのであるかと云ふに彼れ等の言ふ所によれば唯今では財政に於て収支相償はず莫大な負債を持って居る 此の借金状態を何とかして取り返さねばならぬ 之れが爲めには公債の整理が必要である又金解禁については金の輸出禁止は國家今日の不可癒的癌である 之れを治救するには之れを解禁し、之を解禁するには緊縮が必要であるといふのであります私には之れに對して全く異論を有するものであります

成る程緊縮するには公債整理も金解禁も必要でありませう 然し夫れは時機と程度の問題で之を誤る時には実に由々敷結果を招来することを考へなければならぬのであります

井上蔵相は此緊縮政策を理由づけるために組閣当初「國民に訴ふ」なる冊子を頒布して日本は大正十年には歳入二十五億ありしものが昭和四年の今日では十四億しかない之れでは困るといふ事を申されて居ます

然し私は井上氏の此冊子を読んで其の餘りに國民を欺くものである事に驚いたのであります 彼れは何故斯る誤りをなしたかといふに大正十一年の二十一億といふ歳入は即ち其決算の数字であつて此剰金

繰り越しを含んでみないことに起因してゐるのであります 故意か過失か井上蔵相は此重大なる過失を敢てして以て緊縮政策の理由として居ることを私は遺憾とせざるを得ないのであります

此事は嘗て或る公開の席上に於て一政友会代議士より追求され井上蔵相は一言の弁解もなく深く自己の過失を陳謝した事実に徴しても明瞭なる事であつて國民を欺く事は出来ても数字を欺く事は出来ない事を証拠だてたのであります

要するに井上氏の言に反して日本の歳入は年に少額ながらも増額してゐるのは柄平たる事実であります、して見れば斯る誤れる論点より出発した現内閣の緊縮節約の理由の大半は先づ消滅したものと言はねばならないのであります

さて公債整理といふことでありますが彼れ等の言ふ処では我々が負担している六十億の負債は一日も早く返さなければならぬ、欧州戦前三十億であつた負債が今日では六十億に達して居る此俛て行くならば我國民は借金の為に首が廻らぬ様になると火がついた様な騒ぎで公債整理を力説してゐるのであります

成程我國民の負債が三十億から六十億に上つてゐるの事は事実であります併し此六十億の負債内容は日露戦争と関東大震災の時のもの、外は大部分は産業のため事業のために使用されて居るものであつて此産業に依て今日の日本の歳入が約二倍になつてゐる事を思へば此六十億の借金も餘り苦にすべきではありません 十萬円の身代の者が一萬円の借金をすれば、百萬円の身代の者が十萬円の借金をしたからとて敢て驚くべき事ではなからうと考へるのであります 現に英国の如きは戦前に比し約十億の負債増加となつてゐるのであつて我國の如きは寧ろ少ない位なものであります

殊に況んや其金が我國力を發達せしむる要素たる産業や事業のために使はれてゐる事を思へば此借金は敢て苦とすべきものではないのであります 例へば之を諸君の一家にしてからが、苟くも茲に確實な商売なり事業なり十二分なる見込がありとしたなら仮令家屋敷を抵当に入れても借金して先づ取り掛つて見るといふ心構へがなければならぬではありませんか、これが為めに國家が奨励する銀行もあれば其他の金融機関も設けられて居るのであります 夫を唯借金を苦にして、みんなが唯緊縮だ節約だと言つて何事もせず手にしなかつたならば一体世の中はどうなつて行くでございましょうか

然るに現濱口内閣は唯此公債をせんがために徒らに緊縮と稱し節約と唱へて此の産業の財源を枯渇せしむる所の無謀なる予算を目論見総じて事業の中止 補助の削減等を断行して國家の財政を危地に陥れんとする事は我々政治に携はる者の黙止することの出来ない点であります

即ち彼れ等の言ふ緊縮節約は冗費の節約といふことにあらずして事業の中止といふ事であり、然して此事業の中止といふ事は取りも直さず恐るべき世の中の不景氣を招来するといふ事に濱口内閣は気づかないのであります 而して明年度の予算には此結果に依て約千六百萬圓といふものは斧鉞を加へられ大犠牲削減を試みられ総ての事業がとまつてゐる其結果は到底千六百萬圓では取り返しがつかない事となる事を吾々は恐れるのであります、斯く觀じれば濱口内閣の公債による緊縮政策といふものが如何に無定見極まるのであり、無謀極まるものであるかとお判りであろうと思ふのであります

次は金解禁について申し上げます、現内閣の説明からする処によると我國現在の貿易状態は非常なる輸入超過になつてゐる之を平衡の位置に返すにはどうしても物資の節約を行ひ内地の物価を下落せしめなければならぬと力説してゐるのであります 然し内地の物価を下落せしめて果して貿易のバランスが取り返されるといふ事は大なる疑問であります

何となれば我國民の使用する物資といふ物は衣服 米 味噌等すべて欧米諸国とは全然共通しないもので之を節約して餘剰となつた物を外国へ輸出する事の出来ないものばかりであります、のみならず如何に節約しても衣服に要する綿は以前として国外より七億圓の輸入を仰がなければならず肥料の四億亦

然り石油材木皆然りて是等は我國の物価が上ろうが下ろうが國民が裸になって暮らして産業を全然中止せぬ限り断じて輸入防止をする事の出来ない物ばかりであります

之れに反して欧米諸国の國民は洋服を着、靴をはき、パンを食って牛乳を飲んでゐる民族であります 若し彼れ等が衣食住の節約を計り其物価を下落せしめて之を輸出することゝなれば必ず其貿易を回復せしめる事も出来るのであつて我國は全然其趣を異にしてゐる事に現内閣は思ひ及ばないのであります のみならず我國が大正六年以来十二年間行つて来た金の輸出禁止によつて受けたる利益は如何ばかりでありませう金輸出禁止に伴ふ銀相場の浮動が我國對支那貿易を遂に今日の隆盛に導いたではありませんか 今日では我國の輸出貿易の殆ど半ばは此支那を相手として行われてゐるのであります 又是れは偶然の結果ではありますが此輸出禁止によつて我國の製鉄業製鋼業肥料業が今や漸次に隆盛となり一時休止中の各工場が盛んに黒煙を挙ぐる結果に立ち至つたのであります

是れは偶然の結果要するに濱口内閣の主張する金の解禁は實に無謀極まるものであつて何を苦しんで斯くも解禁断行を急ぐか判断に苦しむものであります 我々の考へでは我國の貿易状態が自然の状態に復し輸出入の平衡と對外為換相場が平衡に直つた時に行ふ可きが当然だらふと信ずるものであるが聞く処によると現内閣は一部銀行業者の輿論に引きずられて遂にかゝる無謀を取てするに至つたもので其間には様々複雑した事情も承はつてゐますが私は今之を陳べることを欲しませんが苟くも台閣に立つて国政口理の大任を荷ふ責任にあるものが一部階級の利益をのみ謀らんとするが如きは諸君と雖も認容する事の出来ない不都合であらふと思ひます

数へ来れば現内閣の緊縮政策は殆ど其何の意たるを解する事の出来ぬ無能無策を暴露した失政であります 果して此緊縮を励行して残るものは何でありますか、話が上にも深刻を極めて居る不景気は益々不景気を加へて諸君國民の生活苦を脅威すること火を見るより明らかであります 若し諸君が此内閣の此政策を是認するに於ては今後一年ならずして私の言が適確真理の響きを傳へて鳴り響くであらうことを断言するものであります

私は茲に私の哀心から熱情を訴へて諸君の公平なる批判を仰がんと欲するものであります (文責記者)

[以下、山本悌二郎の漢詩八首を略す]

●社会民衆党の郡内遊説 [四年十月十九日]

社会民衆党佐渡支部にては左記の弁士を招聘して郡内三箇所に政談演説会を開いて党勢を擴張することゝし 一行は十月十九日渡来し二十四日午前の第八佐渡丸にて退郡したれ共詳細なることは不明である

- | | | |
|------|-------------|-------------|
| 一、会場 | 十月十九日午後六時より | 両津町劇場 |
| | 同二十日午後六時より | 河原田町常念寺 |
| | 同二十一日午後六時より | 相川町相川館 |
| 一、弁士 | 社会民衆党中央委員 | 堤 隆 |
| | 本部特派員 | 川瀬 宏 |
| | 新潟支部長 | 長谷川 寛 |
| | 新潟支部執行委員 | 長岡 藤次 |
| | 西蒲原郡支部長 | 高田 弥雄司 |
| 一、演題 | 金解禁問題の批判 | 民政、政友、両党の正体 |
| | 買 勳 | 金力大名の討伐 |
| | 私鉄事件の真相 | 生産的新社会の建設 |

●本間一松の死亡 [四年十一月七日]

佐渡政友倶楽部顧問 本間一松は越後の某中学校に在職して居た二男末雄の結婚式を新潟にて挙ぐる為め出新して寒冒に罹りたるが元来強健體なりしを以て輕視し碌々医師にもかけず居たりしが病俄に革まり治療の術なきに至ったので急報に接したる親戚等は大に驚き駆けつけたれ共 十一月七日午前七時遂に死亡したれば其地にて密葬に付し九日午後六時半兩津入港の佐渡丸にて末雄、北吟吉、其他の親戚友人等に護られて帰った 船場には新穂村長 河原治一、宮本光雄、政友倶楽部顧問 齋藤長三其他多数出迎へ居て直ちに新穂の自邸に入った

同人の出生地なる新穂村大字青木にては同人の同大字に尽せる大なる功勞ありとして大字葬を行ふこととなり 十一日青木公会堂にて執行した 僧侶の読經に次で、青木区長 土屋春藏、新穂村長 河原治一、新穂村教育長、友人惣代 齋藤長三、其他各種団体多数の弔詞、政友会総裁 犬養毅其他の弔電披露あり、遺族を始め順次焼香をなし正午過ぎ終了したが会葬者八百余名盛会にてありし、寛光院自覺一松居士と諡す 享年六十七歳なり

同人は円山溟北に就て漢学を修めたのであるけれ共 詩歌などを詠みたることをきかなかつたが大正十三年四月山本悌二郎が佐渡の遊説をなし小木を引上ぐると云ふ間に左の二句を吟じたと其当時の新聞に見えたけれ共 其意味が分らぬ

はや三年たむけの花の夜をくもる
花に来て花に居らざる恨みかな

●北吟吉等愛國大衆党の組織 [四年十一月]

十一月 北吟吉等は左記の綱領により愛國大衆党を組織せんとして計画中であつたが今や機運到来せりとて近く発会式を挙ぐるとの事である (其後不明)

綱 領 (草案)

- 一、吾党ハ天皇ト國民大衆トノ間ニ介在スルー一切ノ中間勢力ヲ排撃シ一君萬民君民一家ノ本義ニ基キ搾取ナキ國家ノ建設ヲ期ス
- 一、吾党ハ天皇政治ヲ徹底シ個人主義ヲ基調トスル諸般ノ組織ニ根本的の改革ヲ加ヘ産業大權ノ確立ニヨリテ全産業ノ國家的黨勢ヲ期ス
- 一、吾党ハ農民大衆ト都市勤勞者トノ利害ノ調和ヲ図ルト共ニ國民生活ノ農本還元ヲ期ス
- 一、吾党ハ資本主義ノ傀儡タル特權政黨ト国政ヲ無視セル無産政黨トニ鋭リ對立シ是レガ克服ヲ期ス
- 一、吾党ハ白人帝國主義ノ鉄鎖タリシ有色諸民族ヲ解放シ 人種平等資源平衡ノ原則ノ上ニ新世界ノ秩序ノ創建ヲ期ス

顧 問	北 吟吉	大川周明		
中央準備委員代表	天野辰夫	赤神良讓	水守龜之助	其他
全國準備委員代表	森本州平	中原謹司	佐藤政男	其他

●社会民衆党佐渡支部発会式 [四年十二月十五日]

十二月十五日午後六時より兩津町 本間庄七方に於て社会民衆党佐渡支部の発会式を挙げ宣言 (不明) 其他を決議し役員を選舉した

政 策

- 一、航路ノ公営 鉄道ノ連結
- 二、二等郵便局（一ヶ）ノ設置
- 三、底曳機船ノ操業ヲ六哩以外トセヨ並ニ禁漁期間ヲ六ヶ月トセヨ
- 四、沿岸道路網ノ完成
- 五、加茂湖湖口ヲ開削シ以テ良港ノ完成ヲ期ス
- 六、公設職業紹介所ノ設置
- 七、佐渡公設療養病院ノ設置
- 八、家屋賃貸価格調査ニ借屋人ヲ参加サセヨ
- 九、地主組合会議ニ小作人ヲ参加サセヨ
- 十、電話ノ郡内通話料ヲ廢セヨ
- 十一、水産学校設置、別科トシテ機関部ノ短期養成
- 十二、地主對小作人ノ合法的分配

運動方針

- 一、支部ノ主要任務ハ政治闘争ヲ闘フニアルガ然シ日常闘争ヲ閑却シテハナラナイ 即チ勤労者階級本位ノ経済確立ヲ目的トシ以テ未組織ノ大衆ノ階級的自覚ト團結ヲ促スト共ニ其開放ニ精神スル事（原文ノママ）
- 二、政治経済闘争ノ敢行ニ当ツテハ自分ノ持場ヲ死守スルト共ニ観念的行動ニ陥ルコトナク党ノ指導精神ニ準拠シテ堅実ニ闘フ事
- 三、定期研究会ヲ開キ先鋭ナル開放理論ノ把握ニ努メ同時ニ労働小作争議ニ関スル実行的戦術ノ研究ヲ怠ラザル事

之れより先、十一月二十四日両津町夷 田中正一宅に支部組織準備会を開き 組織に関する諸般の打合せを為し 十二月十五日本部より 安倍党首及新潟支部より闘將を招いて全郡的に政談演説会を開き氣勢を挙げ同時に支部発会式を挙行すること、なし当日役員を左の如く決定し左の声明書を発表して居るが是れは前者と同一のものか聊か擬を存して置く

支部長 皆川九郎
 組織部長 大阪茂作
 宣伝部長 桜井要八郎
 執行委員 甲斐自成 榎兼吉

聲明書

佐渡勤労大衆諸君、我が社会民衆党佐渡支部準備会ハ光輝アル傳説的思想ヲ佐渡ノ一端ニ掲ゲシヨリ以来約一ヶ月車税撤廢ノ街頭署名ヲ始メトシ 最モ合法的手段ヲ以テ民衆諸君ト声ヲ合セテ来タノデアリマス

幸ヒ時代要求ハ普通選挙ヲ実施シ特権階級本位ノ政治ヲ改革スベキ秋ガ来マシタ 我ガ社会民衆党ハ特権階級本位ノ政治ヲ根本的ニ改革シテ健全ナル国民生活ヲ樹立スルタメ生レタモノデアリマス 政權ヲ特権階級ノ手カラ勤労階級ノ手ニ移シテ以テ真ノ民衆党政治ノ確立スルコトガ社会民衆党ノ使命デアリマス（中略）

久シキニ涉ツテ無視サレ蹂躪サレテ来タ勤労無産大衆ノ利益ヲ代表シ擁護スル政党ガ郡政ノ一角ニモ立上リマシタ 日本政界ノ重大ナル転換期ニ際シテ社会民衆党ヲ全フセシムベク我ガ準備会ハ諸君ノ決意ヲ促ガシ熱誠ナル協力ニ依テ支部結成ヲ果サントスルモノデアリマス

●日本大衆党の演説会 [四年十月二十七日]

日本大衆党佐渡支部は十月二十七日全郡同志の協議会を開くと同時に即日支部準備会を設置し 其後二、三回組織委員会を開き諸般の協議を為し 愈々十二月二十五日新穂村に於て結党式を挙ぐることにし（此結党式は果たして挙行せるや明かならず）本部より浅沼稻次郎、浅原健三、縣支部より三宅正一縣會議員 弁護士 井上乙吉、全農組合会議部長 今井一郎等を招き結党式に先だち 二十二日兩津を振り出しに各地に演説会を開かんと夫々計画中であつたが、本部より細野三千雄、三宅正一、松本淳三等が二十二日渡航せるを以て同夜兩津にて第一聲を放ち 順次（二十三日は不明）二十四日正午沢根、夜相川、二十五日同じく吉井と新穂、二十六日畑野と新町、二十七日赤泊にて開会した 右三人の外に後藤奥衛、河原治一、荻野次郎等も之れに加はり熱弁を振った

[日本大衆党：

雑誌近代、昭和 35 年 7 月、第四号、「佐渡政党史、それへの若干の資料、後藤奥衛」に詳しい]

○昭和五年

●農政革新会の演説 [五年一月十一日]

佐渡農政革新会にては新潟革政労働党首 縣會議員 井上乙吉、全國農民組合新潟出張所長 松浦豊吉の兩人を招き之れに菊地弘吉、佐合源吉の兩人加はりて一月十一日夜 吉井村、十二日午後新穂村、十三日夜河崎村にて時局批判の演説会を開いたが井上は四時、松浦は二時間に渉る長演舌を振ふた

●第五十七期議会の解散 [五年一月二十一日]

民政党濱口内閣の與黨議員は百七十三名の少数なるに野党なる政友会は二百二十七名の多数を有し絶対過半数を占め居たるを以て諸般の国策を遂行するに故障多く政局を不安定の状態におくことは國家の爲め憂慮されるといふ理由の下に第五十七期議会の休会明けの一月二十一日の劈頭に於て解散を行った

●民政党の立候補 [五年二月十日]

民政党新潟縣支部にては五年一月二十七日其樓上に幹部会を開き 第一区よりは野沢卯市と新潟の松井郡治の二人を立候補せしむることに決定したれば、野澤は着々準備を為しつゝ、ありしに其後更に川上法励を立んとするものあり 或は支部内にも異論者あり夫是の行掛りより野沢は慫慂して候補辞退の意を洩らしたので郡幹部数名は二月二日新潟に出て野沢に勸説相努め其承諾を得たので六日河原田町江戸屋に臨時大会を開き満場一致 野沢卯市推薦に決定し 我党内閣の力に依て前二回の雪辱を為さんとの意気ものすごく相田栄蔵を推薦者として届出の手續きを了したが本縣第一区は濱口内閣の大家落としの目標とせらるゝ山本悌二郎、田辺熊一、の居る処だけに天下第一の激戦地ならんと目され民政派も緊張しつゝ、ありしに意外の波瀾が捲き起つた、則ち野沢派は佐渡全部と西蒲原郡の一部に戦線を専き新潟市にも多少手を延ばさんとせし処、新潟を根拠とする松井派は野沢の新潟進出を拒絶したれば野沢派は口を極めて争ひ、結局東西新潟に一箇所づゝの政見発表演説会丈りにてもとの申込みさへ松井派は拒否したれば野沢の事務長 相田栄蔵は極度に激昂し佐渡及西蒲原の一部のみにては到底勝算の見込みなしとして九日午後三時県庁に出頭し野沢の立候補取り消しを申出たれば県知事三松武夫並に民政党支部幹部は大に驚き百方妥協を試みたれ共不調に終り 午後五時五十五分には野沢自身より辞退届を出したるに同志の熱烈なる勸説に因て遂に辞意を翻し十日午前七時再び立候補の届出をなし 其日午前の佐渡丸にて帰郡し事務所を江戸屋に設け各地に政見発表演説会を開き十四日八幡村の言論戦を最後とし十五日午後新潟に渡り西蒲原へ出

陣し田辺の牙城へ突入した

野沢卯市の挨拶状

春寒凌ぎ兼候折柄愈々御清適奏大賀候

借第五十七議會解散の後を承けたる今回の総選挙は政界浄化を第一目標とし厳正公平一意 国務に尽瘁しつゝある現内閣の運命を決する重大意義を有するに鑑み同志諸君の熱烈なる御推薦に感謝して不肖自ら揚らず敢て立候補を決意致し候に付き何卒御助力御同情被成下度、政治生活幾十年の顧みれば逆境多く出馬決定に至る迄は不敏其器に非ずとして再三固辞したる次第には候共一度起つて政戦場裡の人と相成候上は飽迄當選を期し奮闘の覚悟口し當落の決は一に各位の御支援如何によるの外無し候間切に不肖従来の政治的主張に御共鳴被下熱誠なる御援助賜はり度謹で得口意候

昭和五年二月

野澤卯市

野沢卯市の再出馬決定に付推薦人の相田栄蔵は二月十日の頃 新潟の旅館にて欣然として語る

ヤア野沢さんが再出馬と決定してこんな嬉しいことはない、全く生れて初めての大きな喜びを感じる、野沢さんと雖も佐渡全郡と西蒲原郡と更に新潟へ極力運動の手を入れてやれば或は當選して山本さんを落すことも可能だかも知れないが、新潟市の民政派では我々を一步も入れまいとし又こっちの方を引受けてくれる者も居ない、是では強敵山本を對手にして戦つて勝味がない、我々は東西新潟に唯一度づつの演説会を要求しても勿ねつけられた、之れでは駄目だから我々も身をひくし、到底野沢さんを押立てる譯には行かぬ、私が引けば勿論野沢さん引くであらう、其アト誰が立つか夫は知らないが又負る戦に前二度敗戦した野沢さんを推し立てることは出来ないので一應辞退したのであるが再出馬と決定してこんな喜ばしいことはない今度は飽まで戦ふつもりである

●政友会の陣容 [五年一月二十九日]

佐渡政友倶楽部にては一月二十九日正午より河原田遊景楼に於て臨時大会を開きしに集まる者百余名 嵐城幹事長挨拶を述べて酒井直一を座長に推し長野三吉、末武瀬平、樋口吉次郎、加藤平蔵、の五人を委員に挙げて詮衡せしめし結果満場一致を以て前代議士 山本悌二郎を推薦することに決定し直ちに本人へ電信を以て通知せし処折返し承諾の旨返電ありしを以て県會議員 児玉竜太郎を推薦者となし夫々其手続を運ばしめた

右総会終つて懇親会を開いた

山本は十日午後夜行にて東京出發、十一、二、の二日間は新潟各所にて演説を為し十三日航海予定の処天候不穩のため十四日午前来郡し直ちに予定の小木の演説会に臨み應援の為め来たれる貴族院議員男爵 中川良長、東京山本会の 松田三郎及郡の 螺沢弁明其他と共に各地を遊説し 十七日午前八時佐渡丸にて退郡した [所懐を示す漢詩、略す]

山本の立候補挨拶状は左の通りである

拝啓

現内閣は不合理なる緊縮政策と早急なる金解禁を以て未曾有の不景気を惹起し 此俟に推移せば六十年間に築き上げたる吾が國民經濟は一朝破滅に帰するの虞無しとせず 不肖曩に農林大臣の職を奉じ産業の發展と國民生活の安定に付き一臂の力を致したる関係もあり現内閣の如く經濟破壊の政治を座視するに忍びず依て今回の衆議院議員総選挙に際し再び立候補致し候 前回は選挙区諸君の御同情に依り幸に當選致したる段 今猶深く感謝致し居候次第に有之然るに此度は前申述候通り國家國民に取り容易ならざる時期に候へば一層の御後援を賜はり當選の榮を擔ひ得らるゝ様致し度茲に挨拶を兼ね特に懇願

致候 敬具

昭和五年二月

山本悌二郎

立憲政友会総裁 犬養毅の推薦状

立憲政友会公認

衆議院議員候補者

山本悌二郎君

右謹んで推薦致候 目下の不景気は日を遂ふて益々惨烈を加へ營業の困難、生活の脅威、底止する処を知らざる実勢に候、今に於て此難境を離脱し、更に進んで帝國の進運を拓開する為めには吾党主張の新政策を施行する以外には匡救の道なきものと確信致候間何卒國家本位の見地より公明の判断を以て右候補者の當選致候様御尽力被下度特に御依頼致候

昭和五年一月

立憲政友会総裁 犬養 毅

本郡に於ける選挙界は政友会の山本悌二郎が二月七日より河原田町山方旅館に事務所を開設することに決定した、一方民政党は野沢卯市を推して過去三回の雪辱戦を試み一気に政友会の巨頭山本を屠らんとして河原田町江戸屋旅館に事務所を開設することゝなつた、更に政友派は民政派に一步機先を制して前貴族院議員 中川良長 男一行が五日夜郡農会堂に山本の應援演説会を開催し茲に総選挙言論戦の火蓋を切つた 弁士は豊田俊介「開会の辞」田中栄一「政界浄化の爲めに」田尻稲堂「選挙に直面して」明大教授法学士西村輝明「客観的見地に座して」本部特派員「我等の政治」前貴族院議員男爵 中川良長「回天の時期」の人々にて一行は六日河原田、七日小木と羽茂、八日河崎と新穂と順次開演した 山本悌二郎は二月十四日午前帰省し 同日は小木、羽茂、赤泊、畑野、真野、十四日は吉井、河原田、沢根、相川等にも出演したが其他は略す

●無産党の態度 [五年二月二十日]

新潟市に二百、西蒲原郡に三百、佐渡郡に五十、合せて五百五十名の会員を有する社会民衆党新潟支部にては支部長 長谷川寛を擁立すべく準備を進めたが長谷川は一身上の都合で候補を断念した、め止むを得ず唯同志の結束を堅むるため 且つは無産階級の立場を失はない様に影候補の長谷川に投票することに決して居る為め本郡無産団体なる社会民衆党佐渡支部及日本大衆党佐渡郡準備会は二月二十日総選挙につき左の如き共同声明書を發表した

聲 明 書

- 一、我々ハ歴史的使命ヲ異ニスル無産階級党トシテ資本家地主ノ政党候補ニ絶対投票セヌ事
 - 二、我々ハ普選ノ意志ニ従ヒ棄権セヌコトトシ各党ハソレゾレノ指令又ハ協議ニ従ヒ投票スベキ事
 - イ、日本大衆党佐渡支部準備会ハ縣聯合會ノ指令ニ基キ白紙投票或ハ三宅正一ノ影候補ニ投票スル事
 - ロ、社会民衆党佐渡支部ハ白紙投票或ハ影候補トシテ長谷川寛ニ投票スル事
- 右無産団体協議会ノ決議ニ依リ之ヲ声明スル

昭和五年二月十三日

日本大衆党佐渡支部準備会
社会民衆党佐渡支部

●佐渡立憲民衆党の分裂 [五年二月六日]

佐渡立憲民衆党では今期総選挙対策に付 紛擾を醸して居たが幹部たる唐崎佐傳次は民政党の野沢候補と因縁を結んで居る事が暴露されたに端を発し 本間汎は「無産党の指導精神を没却すると同時に無産階級の階級的意識を汚す」と憤慨し突如脱党を言明するや伊藤治一は理論的に之れに共鳴して連名声明書を發した

聲 明 書

千九百三十年の輝ける春は何を迎へるか

キャピタリズムに対する全プロレタリアの階級闘争を通じて開放を辿るのだ

今や前に迫った総選挙は則ち我等無産的闘争の段階を踏み越えて勇敢に我等の社会を建設する一道路である、然るに今我選挙区たる第一区には不幸にして全無産階級の生活を擁護して立つ候補者無き為め我が佐渡の一般大衆は其一票の行使に迷ひ 遂に政治的無関心状態に置かるるの現状に在る、吾人は此秋に當り郡民に激して其階級的正義感の命ずる処に従ひ善処すべきを力説するのである、即ち政友会は産業主義であり、民政党は金融資本主義である、而して彼等は今や資本主義債権の為めの産業の大合理化を図り以て極めて少数特権ブルジョアの大利益を擁護するための中産階級は貧窮大衆の渦中へ没落を餘義なくされて居る、然も現内閣は金解禁を断行し日本資本主義の一時的安定を策し一方國民大衆には国利民福の為め一時の不景気を忍べと欺瞞し、無産大衆をして生命の緊縮を強ひつゝある、即ち極端なる利己的集団たる彼等の前には金権擁護の塊悪政治以外に何物もない彼等が如何に選挙の革正を叫び強く正しく明るき政治を叫んでも其為す所、暗き政治が行はれ民衆の生活を掠奪し不合理極まる欺瞞政治を展開する時、無産党は真に正しき選挙戦を闘ひ民衆政治の確立に向つて驀進しつゝあるに當り官憲の弾圧と其裏に動く、資本主義の魔手はインテルゲンジャを始め國民齊しく憤慨措かざる処である 吾人は茲に政、民、両党及び其凡ての所属団体に反対し我親愛なる無産者諸君と共に民衆自体の生活を用語する為め現在の不純なる佐渡立憲民衆党の即時解散を望み奮然脱党して無産者の為め一身を供して血塗れの犠牲を惜しまざる覚悟を大衆に誓つて声明す

昭和五年二月六日

佐渡立憲民衆党

幹事長

本間 汎

伊藤 治一

●第十七回衆議院議員選挙 [五年二月二十日]

濱口内閣は野党議員多数なるがため政策を実行する能はずとの理由の下に解散したるものなれば與党議員多数の當選を需めざる可らざることは当然の事にして即ち民政党は此方針に依て戦略を行ふので殊に本郡に於ける民政党は政友会山本の為に連戦連敗已に八回に及び御大野澤すら二回其厄難に遭遇したのであれば今度こそは内閣は我党内閣にて知事は金箔つきの民政知事 三松武夫なれば会稽の恥を注ぐは此時なりと意気込み、三松亦我党内閣の下に知事となって野澤を落選せしめては面目が立たぬといふので、第一区には政府の所謂大者落しといふ山本、田辺の二大者あれば 爰に一大奮闘を為すべき趨勢となり天下第一の激戦地と目され政友山本の危険は始めより一般の問題となって居た

三松は野沢を當選せしむるには如何なる方策を採るべきかに苦慮し 野党山本の立つ佐渡と田辺の立つ西蒲原の各警察署長には時々其状勢を報告せしめて画策せしことは勿論であるが之れに對し各署長連は何と報告せしか著者が選挙前三の警察官に面会せし時には何れも異口同様に絶対に山本の當選と田辺の危険を語つた (其警察官は何れも健在なるが故にもしも差し支へあつてはならぬから氏名は現はさぬ) 夫等より想像する時は本郡の各署長は山本の地盤の強固にして優勢なることを報告せしものならんか而し

て西蒲原郡の署長連は松井、野沢は勿論の事山本も奮戦する所なりと知り居るが故に餘りに田辺の優勢を報告せざりしものなるべし、三松とても此位の考へは素よりありしなるべきも各署長の報告によりて一層臍を堅め誰にても一人落選せしむれば夫に殆んど責任免れの様のものであるから困難の山本よりは多少とも欠陥のある田辺を落選せしむるの容易なるを考へ 数日前より鉾先を西蒲原郡に向けたものなるべし、夫は其当時の越後の新聞紙の報道によりて西蒲原の戦線の激烈となりたるに微し首肯することが出来た

即ち山本は佐渡に於て五分以上を獲得し新潟に於ても今日の山本の聲望としては相當の票を得べく而して西蒲原にては田辺に叛いて山本に共鳴する者も相當にあるべく之れに反して田辺は佐渡には絶対得票なく新潟に於ては松井の奮闘あり其上 野沢にも又山本藤右衛門にも奪取せらるべければ彼れの得票は多からざるべく而して自郡へは前記三候補が轡を揃へて斬り込むこと、なれば其戦果は計り知るべからざるを以て田辺を危険視するは当然の事である

然るに一方民政党にては今回は是が非でも野沢を当選せしめねばならぬとして種々の方策を講じ警察の側へもウルサクて困る位の注文を持ち込み 制私服の警官を昼夜政友会の事務所を監視せしめ其出入者を誰何し或は身体検査を行ひ或は政友会員に尾行して要務を妨害せしむるなど官憲の手不足に乗じて民政党员又は雇ひ入れたる人々に民政党幹部の名刺を持たせ又は合印し合言葉等を用ゐて警官の補助たらしめたる者が政友会員の眼にはホンモノと見へて之を恐るれば彼等は面白半分にて之を脅威したれば事務所は包囲に陥り自然に運動の途を断たれた

爰に山本の親戚 佐野忠吉は思へらく、議会解散の理由は與党議員を多数ならしめんとするものにして民政党内閣なれば大干渉を行ふべきは火を暗るよりも明かなり、敵は佐渡民政の御大、シカも曩に三回迄山本の為に苦杯を嘗めてある野沢卯市なり、本人は勿論党员一同も今度こそは会稽の恥を雪がんと手グスネひいて待て居ることは云ふまでもなし、中々尋常一様の手数にては覚束なく其苦戦や知るべきのみと兼て別懇にして居る政友派の総務 名畑清次が新潟医大に入院中なるを二月十日頃訪れて之を計りに名畑も同感にて意気相投合し野沢の事務長なる相田栄蔵は名畑とは懇意の間柄なるを以て佐野を此二人に紹介した、佐野は政友会の幹部にも話さず独り嵐城治作は山本とは親戚も口ならざる関係なるを以て嵐城にのみ僅かに洩して先づ畑野にて本間に面会し更に河原田にて相田と会見し趣旨を述べて交渉せんとせしに時は二月十六日選挙の間近くなった時であった

相田等も山本の強敵なることを知り居れば此交渉に應じ選挙場裡を円満平和に収支せしめんことは希望する処なれ共 本人野沢及三松知事の意向をも知らねばならぬ事なれば在新潟の野沢と協議して回答せんといふ事にて物別れとなつたが此事政友派に在ては其夜即ち十六日の夜に入り幹部の知る処となり其交渉は結構なれ共 已に時間なく新潟を往復する間には選挙当日となるべし、去れば到底妥協成立は覚束なければ此俟進行するに如かずと、山本にも進言したれ共 山本は「已に交渉を開始したる以上は先方の回答を待たずして進行するは吾より信を破るものなり仮令為めに不幸落選するも吾之を欲せず」と、幹部は不満なりしも止むを得ず其俟となりしが、サテ事務所は前にも記せる如く、制、私、服の警官及雇壯士等に依て包囲され運動自由ならず殆んど何等為すこともなく又民政派よりは其後何等回答もなく妥協は有耶無耶の間に終つて済んだ

政友派幹部の後藤政次郎の家屋内にては何事か画策せずやとの総会ありしものか、此細き道路と事務所と同じく後藤の宅の表裏も都合三方より包囲したれば所謂 政友派は袋の鼠の如く蟻の這ひ出づる処もないと云ふ様の有様であった

森守蔵は此危険を侵し若干の運動費を携へ野方傳七郎の自動車にて小木羽茂方面に至るべく出掛けしに新町に至るや某警察官は森に要談あり下車せよとの事なれば野方は空車を小木方面に飛ばせたが若し途

中社内を搜索さるゝ様の事ありては一大事とばかりに携帯せる若干の運動費を田切須坂の或る大石の根元に深く埋め萬一の事ありても自分が小木方面へ所要にて行くに森を便乗せしめしものなりとて逃げべく準備したのである、数日の後其は無事に堀り出した

新聞記事は信ずるに足らずとするも併し全然虚偽とも言ひ難からんが十八九日頃の佐渡新聞は「果然野沢派巨利を博し、山本候補落選か、天人共に許さざる金権と弾圧に逢ひ、形成愈々危険となる」とか「悠々天馬の如き野沢派の買収戦、嚴重なる官憲監視を外に、今は必勝既に疑いなし」或は「山本候補愈々危ふし、大勢既に如何共為し難し、空しく野沢派の跳梁に委め」などの記事があった

新聞社の誇張誇大の記事には相違なからふと思へ共 独り民政党ばかりでなく政友党と雖も我党内閣の時は或は夫れ然らん乎であらう

前に記したる通り妥協は其俟となり政友派は全く運動の手を断れた、選挙は已に二日と迫った、言はば山本の親戚のひいきの引倒しの様のものであった

夫ればかりでなく新潟にては新任署長助川某が御役目大事と忠勤ぶって非常の圧迫を加へたることゝ、西蒲原にては山本は信を守って縄張り以外へは一步も足を踏み出さざりしことなどは山本の為めには大不利であった

野沢は三松知事が極力應援せる為めでもあったけれ共 彼れが新潟に居て口に種々の問題に努力せし報ひも意外の利益となった

開票の結果は遂に山本の落選となった、與党の前蔵相 片岡直温のソレと相並んで確かに大番狂はせであった

当選	二二三二九票	(民政)	野澤卯市
	一六八八六票	(同)	松井郡治
	一五三四〇票	(政友)	田辺熊一
次点	一三九六二票	(同)	山本悌二郎

本縣の成績は民政党九人、政友会五人、革新党一人の十五人となった

民政党九人

第一区	二二三二九	野澤卯市	
	一六八八六	松井郡治	
第二区		佐藤與一	
		長尾半平	革新一人
		佐藤謙之輔	原吉郎
第三区		関矢儀八郎	大竹貫一
第四区		増田義一	石塚 讓

政友会五人

第一区	一五三四〇	田辺熊一	
第二区		高橋光威	加藤知正
第三区		山田又司	
第四区		武田徳三郎	

前記四人の佐渡に於ける町村別得票は左の通りである

町村名	有権者数	山本	野沢	松井	田辺
相川	1561	859	859	2	20
二見	782	462	462		
沢根	788	405	405		
河原田	476	256	256		
八幡	408	220	220		
二宮	906	495	495		
金沢	1414	717	620	3	1
吉井	1138	367	617	2	
新穂	1565	568	878		
畑野	1630	616	916		
真野	1518	738	699		
西三川	728	278	399		
小木	1251	667	517		
羽茂	1320	694	553		
赤泊	1381	263	938		
松ヶ崎	387	159	207	2	
岩首	373	195	148		
水津	338	74	246		
河崎	1251	548	647		
両津	1438	517	820		
加茂	1241	321	835		
内海府	261	60	186		
外海府	416	227	153		
高千	1091	395	619		
金泉	883	313	503		
計	24276				
新潟	23083	4069	3579	9299	3234
西蒲原	28156	311	5572	7572	12059
合計	75515	13966	22329	16880	15319

選挙前の二月十一日の紀元節に河原田の民政派事務所へ相川局の消印ありし有権者より野沢候補激励の封書が一通舞ひ込んだ 其内容の大要は

此一戦、前の苦戦を足せば当選となる、賛成者多し当選確実也云々として一銭切手を貼りて其上に（此一戦）と書き、三銭切手を三枚貼布して其上に（苦戦）と書き、合はせて今回は十銭（当選）なりと認め、三銭切手の上に（賛成者）と書き、三銭切手十六枚と二銭切手一枚を貼りて五十銭には（御当選）

と書いてあった

選挙前の吉端なり、果たして野沢は当選した

又山本は落選に際して左の一詩を詠んだ

選挙下第紀感

[漢詩は略す]

山本は明治三十五年八月執行の第七回総選挙に初めて政界に乗り出すと同時に候補者となって落選したれ共 第九回以来第十五回迄は連戦連勝せるも今回即ち第十七回には民政党内閣の干渉に依て落選せしが次の第十八回以降三回即ち彼れの病没するまでは当選した

此選挙には民政党の大物叩き落しの策戦により第一区の中の本郡は全国的に一大激戦地と化するであらうと予想して縣当局は二月十日三四十名の應援警察官を渡海せしめて四署に分割して警戒に当らしめたが之れに對し政友会本部にては監視団を派遣し恰も警察對派遣団の睨み合といふ調子であったが縣当局は更に十四日三十名の警官を増派し 水も漏さぬ警戒線を張り尾行を發して野党の違反検挙に血眼になった

政友会にては新潟の弁護士 出塚助衛、吉井利八外十数名、佐渡にては新穂の宮本光雄、鳥井嘉藏、土屋和吉、 兩津の村松小八、加藤力藏、小池竜藏、吉田久満次、河崎の佐藤角藏、金田音松、を始め数十名、又民政派にては新潟市会議員 若井種次郎、西蒲原の燕町会議員 大久保菊太郎、其他数十名、佐渡にても土屋六右衛門、浅香寛、渡辺長一、等多数違反の嫌疑にて検挙され取調べの結果は体刑罰金刑に処せられたるもの或は不起訴処分へ附せられたる者もありたるが要するに野党は與党の倍以上の検挙であった 此時に政友会本部より監視団として派遣されたる者は前愛知縣内務部長 齊籐俊太郎、弁護士 松本喜一郎、前本縣警察部長 豊島長吉等であった

●村山浪次郎、田中文部大臣を告発す [五年二月十八日]

長岡市の村山浪次郎は文部大臣 田中隆三が本縣第三区民政党候補者 佐藤謙之輔の應援の爲め二月十八日長岡市にて爲したる演説 山本悌二郎に對する虚偽無根の事実ありしは山本の人気を傷つけ故意に当選妨害の言動を爲したるものなりとて田中を相手取り長岡区裁判所検事局へ告発した

當選妨害罪の告訴

告発人 長岡市旭町二丁目 村山浪次郎

被告人 東京市麻布区中ノ町十一 田中隆三

告発ノ事実關係

- 一、被告人ハ昭和五年二月執行ノ衆議院議員選挙ニ際シ新潟縣第三区候補者 佐藤謙之輔ヲ應援ノ爲メ同年二月十八日長岡市公会堂ニ於テ演説ヲ為スニ方リ本縣第一区衆議院議員候補者 山本悌二郎ノ攻撃ヲ為シ且曰ク「山本悌二郎ハ先般新潟市ニ於テ曰ク五十億ヤ六十億ノ借金ガアツタカラトテ何モビクツクコトハナイ、ソレツバカリノ借金デ台湾島一ツ売ッテモ九州ヤ四国ヲ売却シ得ルデハナイカ（落字ナイカ）ト言ハレタソウダガ國ヲ売ッテ國債ヲ償却セントスルガ如キハ実ニ奇怪至極ノ事デアル云々」ト全然虚偽無根ノ事実ヲ宣傳シタリ
- 二、右被告人ガ衆議院議員候補者 山本悌二郎ニ對シ其當選ヲ得セシメザル目的ヲ持ッテ故意ニ虚偽ノ事実ヲ流布シタルモノニシテ衆議院議員選挙法第二百二十六条第二号ニ該当スル犯罪ナリト思料仕候条至急御取調ノ上嚴重御処分相成度此明奏願上候

証書及事実参考

- 一、 右事実ハ長岡市中島二百十八番地ノ一 山岬弥作（本郡相川町出身）ヲ御取調べ被下候ハバ判明可仕候
- 二、 尚被告人ハ身苟モ文教ノ府ニ長タルノ地位ニアルニ拘ハラズ虚偽無根ノ事実ヲ宣傳シテ他人當選ヲ妨害スルガ如キハ許ス可セザル犯罪ト思料仕候
- 三、 本件ハ犯罪地トシテ御取調相成度候
右奏告發候也

右告發人 長岡市旭町二丁目

昭和五年二月十八日

村山浪次郎

長岡区裁判所検事局御中

右に對し大野検事は告發人 村山浪次郎及証人として新潟毎日新聞長岡支局主任 白井敬造、山岬弥作の三人其他百四人を取り調べた上東京地方裁判所へ移送したるを以て政友会本部にては本郡出身の衆議院議員弁護士 牧野賤男を主任として調査研究せしめたとの事であるから著者は牧野弁護士を訪問して其真相を聞かんとしたれ共 今は何等記憶にないとの事である

●牧野賤男の當選と北吟吉の次点 [五年二月二十日]

此第十七回の総選挙に於て本郡人にして他府縣より立候補せし者は牧野賤男と北吟吉の二人なるが牧野賤男は東京府第五区に於て二万〇八百八十八票にて當選せるも(第二回)北は惜しい哉 次点となったが、北は立候補に際して左の如く語った

郷里からも出馬を勧められた向きもあるが、山本氏や野澤氏を向ふにまわして立つことは僕の親戚関係からも絶対に出来得べきことでもなく、夫々に理由の大なるものは僕が既成政党が嫌ひであることだ、と云って無産党の如く国情を無視しシカモ小党分裂して内訌をつづける状態にも好意は持てぬ、僕は健全なる第三党組織を目標として進んでゐる、之れが不可能なら無所属で通す積りだ、保し僕は議会に出て政治家になる積もりは毛頭ない、飽くまで評論家として議会の内部から自由に行政を批評して行きたいと考へる則ち政治の批判が僕の立候補の目的だ云々

●児玉竜太郎、羽入高等課長を告訴す [五年三月二十二日]

縣會議員児玉竜太郎は第十七回の総選挙に際し一月下旬縣警察部高等警察課長 羽入雪太郎は相川署に出張し両津、小木、河原田の各署長及幹部を集め山本悌二郎に對する干涉取締り方針を授け佐渡民政黨員と聯絡を取り萬遺漏なき様働くべしとの内命を下したとの理由の下に三月二十二日羽入を相手取り新潟裁判所検事局へ選挙妨害の告訴を提起するに至ったが岩淵首席検事は二十五日相川検事局へ出張し関係者の取調べを為せしが其発端は相川警察署警部補 羽賀喜一郎が其内命を受けた一人であつたが何故か選挙直前に誅首されたるを憤って一切を児玉に打明かしたるによるものなりとて羽賀も其取調べを受けたるは勿論、羽入は三月三十一日午後新潟検事局に召還され岩淵賢次の取調べを受けた

●森守蔵、野沢卯市の當選無効を提起す [五年三月二十七日]

昭和五年三月二十七日河原田町 森守蔵は衆議院議員 野沢卯市を相手取り大審院へ當選無効の訴訟を提起した 其内容は新潟縣第一区に於ける法定運動費は一萬九千円であるのに野沢は届け出は六千九百円となり居れども其実法定費用を超過して三万円以上になつて居るといふのである

●新潟警察署長助川某の怪文書 [五年]

第十七回総選挙の直後 新潟警察署長 助川六合彦が、山本悌二郎の落選は予定の結果なりといふことを茨城縣石岡町民政党の弁護士 倉金熊次郎へ通知せしといふ怪文書事件があった 今其審らかなる順序は不明なれ共 手紙の全文を掲ぐれば左の通りである

拝復

総選挙も終了し我党大捷御同様慶賀奏り候 茨城も予期の捷に嬉し当県田一区は着任以来の努力により 予定の如く巨星山本をして土俵の土を握らしめた実に痛快に御座候 斯て小生当地へ任官の義務も履行したる次第直ぐ出京内務局に報告の見込なれども未だ彼等の違反後始末も終らず其機を得ず候 華々しく終了したるは愉快なり 関東男児の本領を發揮したる考へに御座候 何れ拝顔萬可申上候 小生の事は夫々心配も有之筈なり 次田局長が未だ何れも後始末に没頭しあるべく 萬事臨時議會後とは存じ候 宣口願上候

敬具

三月十 (一字不明) 日

六合彦

倉金大兄

昭和五年五月三日午後二時半衆議院予算総会に於て政友会代議士 名川侃市が選挙干渉につき内務大臣安達謙蔵に数箇条の質問を為した其最後に

新潟縣で我党の長老 山本悌二郎氏を落選させんとし内相は極力 力を尽し内務省の地方局長 次田大三郎氏は曾て茨城縣知事時代に高等課長として使った助川六合彦なる者が政友会内閣に於て免職されて みた者を援摘し新潟警察署長として極力圧迫し以て山本先輩を落選せしめたので此手紙が証拠であるとして、前記の手紙を朗読した、内務大臣安達謙蔵は此手紙に對して

唯今お読みになった手紙は助川君の書いたものではない、内務省では助川君にかかる命令を出したことは絶対ない、次田局長にも其事実なきことを確信する

と一蹴せんとしたが「証拠はどうする」「にげをはるな」などと政友会側から弥次が出たが助川は更に「干渉の事実あり」とてネチネチと元の判事氣質を發揮して質問を続ける之れに對し次田局長は左の通り語って居た

助川君はドチラかと云へば内氣及用意周到の人で此様な手紙を書くとは思へない 自分が茨城縣知事であった時に水戸の署長をして居り後大分警察署長に転任したが政友会内閣成立と共に休職になったのを今度自分が推薦したのです 云々

サテ此助川怪文書事件は果然大問題となり、へたをまごつけば内相に迄および延いては内閣の礎石も危ぶまれるにいたつたが之れが調査を命ぜられたる三松武夫知事は五月四日中村警察部長、羽入高等課長と張本人の助川署長を招致し官邸にて種々協議の結果、其怪文書は助川の全然関知せざるものなりとの意味の返答を為すこと、なし五日電報を以て内務省へ報告したが、内務省よりは警察部長 中村次郎に上京命令が来たので中村は六日に上京して大塚警保局長と官邸で面会したが七日午後二時大塚局長は衆議院内務省控室で左の通り語った

助川所長の手紙だと称する問題について中村警察部長を招致して事情をきいたが内容はいろいろと多岐にわたつてあるので未だ近く取り調べは最後までいっていない故に私の口から中間発表は出来ないが近く確然すること、信ず 其餘の事については全くお話出来ないのを遺憾とする云々

五月八日午後一時衆議院本會議に於て代議士 砂田重政の質問は

過日予算惣会に於て同僚名川君が指摘せる新潟警察署長 助川某の選挙干渉問題は警察署の問題たるに止らず次田地方局長の責任問題である

内相は予算総会に於て事実調査の上報告する旨を言明された

と述べて助川より倉金弁護士にあてた前記の手紙を朗読したれば内務大臣 安達謙蔵は、

先達て予算総会に於てお尋ねを受けたので直ちに人を派して調査をさせてみませぬ(?) 故更に人を派して調査致させます

と答へて居る (が其後の事は不明なれば追て取調べて掲載することにします)

右に對し當の助川は左の如くいふて居る

倉金弁護士は一回逢つたことがある、大正二年〇月 僕の浪人中東京府下荏原町の素人下宿に居る当時、其地方から立候補する豊田豊吉といふ人と一緒に僕を訪問して玄關にて選挙に尽力して貰ひたいと依頼して来たことのある男で此時一寸逢つただけで今はどんな男だったかも覚えて居ない位で勿論手紙を往復する様の間柄でなく手紙など全然知らぬ

然るに倉金は助川とは全然反對の話をして居る

問題の手紙は助川君から来たものに違いない、自分は新潟警察署長 助川六合彦氏とは民政党党员として前内閣の選挙に際して党の選挙監視員として可なり同党の爲めに働いた関係があるから懇意です 今回の選挙に民政党が大勝を博したので喜びの手紙をやると助川君からよこした手紙の様です 之れがどうして政友会方面にわかつたのか今の処考へがつかない、此問題について妙なうわさがあるが、自分としては政治上の立場を異にして居るので自分から交換的に手紙を提供したことは絶対にない

一方は僅かに一面識だと云ひ、一方は懇意の間柄といふ嗚呼怪しい哉何れが信か

右に付き某新聞記者が五月三日倉金熊次郎を訪ねて問答した記事が新聞に出て居る

問、此手紙は慥しかに貴方に来たものか (手紙の寫しを示す)

答、慥かに来た、文章も略同じだ、併しよく見なければ (手紙の実物) 全部同じだと断言できぬ

問、どうして手紙を政友会に渡したか

答、実は刑事事件で僕が無料弁護をして居る被告で下妻町の初沢正一郎 (三一) といふ男が盗んでいったらしい

問、間違ひありませんか

答、僕の留守中下妻の法律出張事務所へ出入して居るから大体間違ひはない

僕の妻と幾分親戚関係にある政友会の党员で元下妻町長 沢部元信の手にわたし更に政友会へいったらしい

問、助川新潟署長と貴方はどういう関係か

答、此前の総選挙の時 次田大三郎君 (今の内務省地方局長) と僕と助川君の三人が民政党の監視員になって茨城縣下で奮闘してからの知り合で能く交際して居る

問、最近あったか

答、新潟へいったきり、まだ逢ひません

問、貴方は民政党员か

答、そうだ

問、此問題をどうする

答、明日 (四日) 民政党本部に行き事情を説明し未から信書の秘密を公開したといふ廉で政友会の連中を告訴してやる、君からの話しをきいたので初めて此事を知つたので下妻の方も早速取り調べて見る

又其記者が三日午後十一時 沢部元信を訪ひしに

倉金氏及初沢一郎氏とは三十余日も会見したことがないから何も話しはきいて居らず分かりませんと答へた、更に初沢正一郎を其自宅に訪へば、昂奮の面持にて

私は倉金熊次郎氏とは親戚であり又某事件の弁護を依頼して居るので同氏方に入入りして居ります、四月二十日頃でした 倉金氏方に行くと、新潟の助川氏から可様の書面が来たと見せられました、其末尾に「又茨城縣では我党の大勝に帰し之れ亦喜びに堪へない」と書いてありましたので私は非常に憤慨しました、夫から二日程たって倉金氏方にいたり同氏より該書面を借り受け之れは議会の問題にしなればならぬと考へたので二十六日頃上京して政友会本部に、新潟縣第四区選出代議士 武田徳三郎氏と会見して該書面を渡して来ました

といふて居るが、助川の怪文書を代議士 名川侃市に手交した代議士 武田徳三郎は五月七日衆議院で語った、初沢は自分が二十六日頃上京して武田に渡したといふのに武田は、兎玉より受取ったといふ何れが真か（更に武田、兎玉両氏の意見をきいて掲ぐべし）

私があの手紙を名川に渡したのは事実だ、四月二十四日頃私の自宅に縣會議員の兎玉竜太郎氏が持参したので、之れは面白い材料だと思ふて早速幹部に見せた処名川氏が選挙干渉の質問をすることになってみたので氏に渡したのです、あの手紙については偽筆だとか改竄したとかいふてゐるそうだが、あれは慥しかに助川署長の真筆だと思つて居る云々

とのことであるが、更に武田代議士は、兎玉縣議にあの手紙を渡したといふ茨城縣の小島某並に目下手紙の窃盗で告發されて居る初沢正一郎につき左の通り語った

小島といふ人は私も兎玉君も全く知らぬ人です、ソレであんな有力な手紙を呉れたに就いて、そこにカラクリがあると云ひますが、事実がなければ知らぬ人が如何に私が政友会代議士だからと云つて呉れる筈はないと思ふ、其点だけでも真実であつたので我党に同情して干渉の不当を憤つて送つて呉れたものと思ひます

●石田芳太郎の選挙違反 [五年四月十日]

立憲公正会会頭 石田芳太郎は野沢卯市の選挙事務長縣會議員 相田栄蔵、縣會議員 羽豆太三次外百数十名を選挙違反として告發した、石田の之に對する弁明は

佐渡選挙界は從來金権萬能の習慣がある 是は全く選挙界を腐敗墮落せしむるもので殊に今回野沢派の政戦が餘りに口悪であつた、今後自分が縣會議員に出馬する時、斯くの如くでは到底金が續かない、故に自分は選挙界廓清の爲めに親類縁者を問はず苟も違反の事実あるものに對しては遠慮なく告發したもので決して野沢氏を失格せしめようとするものではない、自分を犠牲にしても此際に廓正しなければならぬといふ意味である云々

五年四月十日新潟検事局へ出頭して告發すると共に自分も自首した、之れが爲め相田、羽豆の二人は其翌十一日に取調べを受け、更に十四日には野沢との對質訊問があつたが野沢は極力石田の申立てを否認した五月二十九日新潟裁判所に於ける選挙違反の公判廷に於て判事の訊問に對し石田は左の如き意味の陳述をして居る

昭和五年十一月二十六日 野沢より應援を請ふ旨の書状に接したが同人は三回目の立候補故 今回落選せしめては気の毒と思ひ應援を承諾し尔来 郡内各所に於て演説による選挙運動を爲したが之れによりて相当効果ありしものと考へ選挙後の四月七日新潟野口旅館に在りて候補者側の違反事項其他を記述したる後へ選挙前の約束に基き報酬として金壹千円を忽與してくれ、違反の如きは僕一人で他に波及せしめぬと云ふ意味の手紙を認め即日桜井旅館止宿の野沢へ送りたるは事実なるも此金は、私はブローカ

的なものとは考へず、運動の間際に約三百円内外をくれたが、夫れ丈では私の関係して居る公政会の刷新が出来ない、其為め金をほしいからであつた、併し野沢は私の送った手紙の中に自分の不利なところはチギッテ捨て、私の不利なところだけ検事局へ渡してある云々

と答へ、其他選挙前後に自分が関係した公政会員其他の買収について判事と数十分間の問答をして訊問を終り、沢登検事は、石田が従来選挙に於ける行動から 今回についての行ひから見て科するに懲役六ヶ月を求刑したが五月三十一日相川裁判所判事は懲役四ヶ月の言渡しをなせしに石田は六月六日扣訴〔提訴〕したれ共却下され更に上告したれ共 是れ亦棄却されて裁判確定して十月十三日午後四等新潟刑務所へ収容され六年二月十三日午前十時に出所した

●山本悌二郎、政友会本部の筆頭総務となる〔五年五月十六日〕

五年五月十六日の政友会本部議員総会に於て犬養総裁より新役員の指名があつて山本は筆頭総務となつた

顧問 高橋光威、外十一名、及前閣僚と前々閣僚
総務 (筆頭総務) 山本悌二郎、鳩山一郎、秦豊助、東武、
熊谷直太、滝正雄、山口義一、島田俊雄、秋田清、
松野鶴平、山崎達之輔
幹事長 森 格
政務調査会長 山本條太郎
常議員会長 岡田忠彦

●縣會議員の補欠選挙〔五年七月五日〕

縣會議員 相田栄蔵は五年五月二十日六十二歳を一期として死亡せるを以て之れに伴ふ補欠選挙は七月五日執行せらるゝことゝなりたるに付各派の情勢大要を記さん

○民 政 党

民政党にては六月二十四日午後 野沢卯市の新潟より帰省せるを迎へて河原田江戸屋旅館に幹部会を開き慎重審議の結果任期僅か一年餘の補欠戦に元老 土屋六右衛門を推すは過去の功勞に酬いるの策としては餘りに寡少であるといふので結局新進氣鋭の松瀬教五郎を推すことに内定したれ共 南部にては石塚一作の出馬を希望して居り 浅香寛 又野望あるものゝ如くなりしを以て決定的態度を表明せず 來たる二十八日の大会までに政友会の顔ぶれをも見定めて考慮することゝして散会した

六月二十八日江戸屋旅館に臨時大会を開きしに我党天下の事として希望者多く入乱れての暗中飛躍であつたが結局 浅香寛の処に落つき言論の精鋭をすぐつて遊説隊を組織し 七月二日金沢村を皮切りとして運動を開始した

○政 友 会

佐渡政友倶楽部にては六月二十八日河原田町山六旅館に臨時大会を開き午後三時開会先づ幹事長 嵐城治作より補欠選挙のため臨時大会を開きたる挨拶を為し顧問 齋藤長三は総選挙後上京して親しく見聞したる中央の政況を報告し座長に高野宏策を推し議事に入りたるが任期一年の事として希望を有するものもなく結局詮衡委員を挙げて詮衡せしむることゝし加藤平蔵、後藤政次郎、樋口吉次郎、金子徳次、坪根舒治、末武直吉、石塚暁孝の七名を委員に指名して休憩せるが委員は別室にて協議の上 森守蔵の奮起を促すことに決定して大会に報告し満場の承認を得て八時に散会した

茲に於て新潟支部より渡辺孝太郎、内山大蔵、児玉竜太郎等を招き金子栄太郎、豊田俊介及森を加へて七

月二日両津町に言論戦の皮切りを為した

○社会民衆党と無産大衆党

無産両派は共同戦線を張ること、して左の如き声明書を発表した

聲 明 書

来る五日施行の縣議補決選挙に際し吾等は共同して吾等陣営内より鬭争的閱歴を有する同志を立候補せしむる筈であったが左の理由より候補者擁立を断念した

- 一、 現行制度の保証金二百円は無産階級に耐えがたき負担を課するため吾等は既成政党の如く浪費すべき餘分の金を有せず再々の選挙遊技は吾等の迷惑とする処
- 二、 吾等は血と牢獄を以て土地を守る三番目の同志を救はねばならぬ、北越新報社の百五十名の同志を見殺しに出来ない、此縣下大争議其他多くの鬭争したり其重要さは縣議補欠選の比にあらざ、断然立候補を中止した、而して
- イ、 既成政党の候補に對して徹底的に鬭争ボイコットし
- ロ、 買収、戸別訪問、干涉等に就ては苛責なく摘発して選挙の公正を期すことに決定した

右聲明す

七月二日

社会民衆党佐渡支部

無産大衆党佐渡支部

○選挙の結果

今回の補欠選挙は投票の前日四日までは全く理想選挙を以て終始し違反事件など薬にしたくてもなかったが俄然四日夜に入り、勝たんが為めには手段を選ばずとの最後の決戦を以て買収戦が行はれつゝありと傳へられたが其真偽は知る処にあらざれ共 七日相川投開票所の開票に際し金泉の投票函中より

金三十錢也右正ニ領収候也　ゴロ寛ブンバツタリナ金三十錢

といふのが飛び出した、猶此外之れに類似したものが他町村の投票函にも数票現はれたので係員も苦笑して居た

偕て開票の結果は民政党の候補 浅香寛の大捷に歸したが各町村の投票数も参考の為め左に掲ぐる

當選 五、六〇九票　（民政党）　相川町　浅香　寛

次点 二、八六一票　（政友会）　河原田町　森　守蔵

町村別票

町村名	浅香 寛	森 守蔵	町村名	浅香 寛	森 守蔵
相川	828	255	羽茂	359	301
二見	360	55	赤泊	548	152
沢根	455	130	松ヶ崎	228	74
河原田	153	189	岩首	186	54
八幡	178	106	水津	237	48
二宮	531	173	河崎	478	235
金沢	481	193	両津	656	262
吉井	466	163	加茂	341	123
新穂	490		内海府	145	26
畑野	568		外海府	64	132
真野	485		高千	483	258
西三川	246		金泉	579	97
小木	442		合計	5609	2861

●佐渡日曜新聞 [五年六月三十日]

小木の山本幸作、加藤一雄等は佐渡に数種の新聞ありと雖も何れも日曜日には発行せざるを以て之を補ふの意味にて毎日曜日に発行する一種の新聞を起こさんと計画し五年六月三十日河原田町に於て佐渡日曜新聞を発行した

然るに其後 佐渡タイムス、新佐渡の両新聞は廃刊し残る佐渡新聞は政友会、佐渡日報は民政党の機関新聞なるを遺憾とし國の中央に在るを幸いに日曜新聞を佐渡中央新聞と改め偏せず党せず不羈独立の日刊新聞と為したるは昭和九年九月一日にて爾後経営すること六年昭和十五年に至り新体制に基づき

創立後満十カ年を経た弊社も新体制に順應すべく縣の内訓により潔く廃刊するに至りましたと述べて此世を去った

●佐渡毎日新聞 [五年七月一日]

佐渡毎日新聞(前に幅野長蔵等の発行せるものとは同名異紙である)は昭和五年 高屋次郎に依て呱呱の声を揚げたが八年五月六日第九百二十一号を以て終刊とし佐渡新聞に合同した、其間不偏不党局外中立を標榜し居たりしも高屋其人が元来自由主義を持し居りしこと、て常に政友会を支持し殆ど其准機関誌の如くなりしが今彼れが新聞経営を左に示さん

彼れは青森県人にて昭和三年五月八日 田中義一内閣の時に佐渡第二代の支庁長となって来たが、元来政友系に属する者なりければ時に民政党より見る時は色彩の明かなるものと見たるなるべく、浅香寛の主宰せる民政党の機関誌佐渡日報は反対党たる政友会に対しては言ふも更なり、彼れに対しても常に罵倒詈讟謗離間中傷の行為ありしと憤慨し居りしが四年八月官を退くや此の日報に酬みんと佐渡新聞の主幹となり縦横の手腕を発揮したりしも之れを以て足れりとせず 五年七月同社を退き自ら新聞を経営し佐渡毎日新聞と称し同月一日其一号を発行せしも其後数年投資せる割合いに集金意の如くならず維持困難となりしを以て八年五月六日佐渡新聞と合同して自ら社長となりしも或る事情の爲め同社を退き一時閑地に在りしも元来雄心勃勃々覇氣満ちたる彼れは閑地に居る能はず 九年一月頃 森守蔵が河原田町に於て発行し

つつありし「新佐渡」を譲り受け 相川町に持ち来りて経営せるも森と意志の齟齬より之を返して更に十一年八九月の頃佐渡新報（富崎五作等の発行せる佐渡新報とは別なり）を創刊して再び操弧界に投じたりしも彼れは日本大学に職を執る事となり十二年九月上京せるを以て後事を森二郎に託したれ共 保証金其他の関係上編輯人発行人等は彼れが夫人福子の名義となり居たりしに夫人又十一月上京したるを以て二郎が代わり経営したれ共 十五年四月十四日二郎急死せるより遂に廃刊となった

●日本大衆党佐渡支部 [五年八月二十四日]

新穂村の後藤奥衛は昭和二年 大山郁夫を委員長とせる労働農民党に入党し引続き四年 堺利彦及本郡出身の青野季吉等の無産大衆党に入り、東京西南支部書記となり、更に日本大衆党本部出版部員となり傍ら東京にて発行せる雑誌「文化批判」を主宰し来りしが五年春帰郷するや麻布久を党首とせる日本大衆党佐渡支部を組織せんとして青年有志及小作組合幹部等を糾合して五年八月二十四日午後一時より新穂町開盛座に於て創立大会を開催した

此日来賓として本部組織部長 浅沼稻次郎、栃木縣聯合会書記 石山寅吉、本縣聯合会会長 三宅正一、等臨席し、河原治一開会の辞を述べ後藤奥衛の支部準備経過、三宅正一の縣聯合会の情勢、浅沼稻次郎の全國の情勢の報告等あつて議事に移り 宣言並に政策、建議案等を可決し 石山寅吉祝辞を陳べ役員選挙を行ひ萬歳を三唱して結党式を終了したが建議案中 加藤嘉七提出の「反動教化団撲滅に関する件」の説明は警官の命によって中止された

宣 言

今や勞農大衆多年ノ宿望タル戦線統一ヘノ熾烈ナル要求ハ遂ニ明確ナル一党合同全國大衆党ノ結成ニヨリ完全ニ果シ得タ

我支部ハ此歴史的意義アル時機ニ於テ結党セントスル我等ノ結党、我等ノ政治闘争ヲシテ苦難ニアテル全労働者、農民、一般無産階級ノ信頼ヲ如何ニシテ克チ獲ントスルカ（中略）

我支部ハ結党ニ依テ更ニ組織ノ擴大ニ努メ萎縮シ、絶望シ、逃避セル未組織大衆ヲシテ新タル意氣ト闘争ニ、刈リタテナケレバナラス、ソハ我等ノ双肩ニカ、ル全國大衆党ノ歴史任務ノ完全ナル成就ノタメニ我ガ支部ノ結党ヲシテ意義アラシメヨ

政 策

- 一、町村会選挙権ノ擴張
- 二、町村長ノ公選
- 三、小学児童授業料ノ撤廢
- 四、自転車、リアカー、荷車、家屋、船ノ諸税廢止
- 五、家賃一割値下ゲ、敷金、権利金ノ撤廢
- 六、越佐航路乗船賃並ニ乗合自動車賃ノ値下ゲ
- 七、電灯料ノ値下ゲ
- 八、小作組合ノ全郡的統一

建 議 案

- | | |
|---------------------|------|
| 一、資本家地主ノ濱口内閣打倒ニ関スル件 | 本間 汎 |
| 一、電灯料値下ゲニ関スル件 | 後藤奥衛 |
| 一、農村窮乏打破ニ関スル件 | 伊藤治一 |
| 一、諸悪税撤廢ニ関スル件 | 同 人 |

一、交通上独占ノ営利自動車会社ニ對シ賃金値下ゲニ關スル件

河原治一

一、反動教化団撲滅ニ關スル件

加藤嘉七

役員

支部長	後藤奥衛	書記長	河原治一
組織部長	本間 汎	宣伝部長	駒形宇吉
教育部長	近藤俊策	調査部長	菊地八朔
財政部長	菊地伸十郎	青年部長	遠藤真一郎
婦人部長	佐々木一作	出版部長	加藤嘉七
會計部長	甲斐喜治		

●大衆党の演説会 [五年八月二十三日]

日本大衆党佐渡支部発会式のため来郡せる、浅沼稻次郎、三宅正一、石山寅吉等は其席を以て全国大衆党結成記念演説会を催ふすこと、して二十三日夜両津を皮切りに新穂、河原田、相川、其他で開演したれ共其詳細は不明であるが両津町劇場に於ては

開会の挨拶	後藤奥衛
時局と大衆の覚悟	三宅正一
民衆性格と我党の使命	石山寅吉
濱口不景気内閣打倒と既成政党撲滅	浅沼稻次郎

八百の聴衆を前に資本主義のカラクリを暴露し緊縮産業合理化、失業ドンゾコの有機的關係を平易に詳述したるため多大の感動を與へた

●大衆党佐渡支部の新潟縣知事に要求書を出す [五年九月三十日]

新任県知事黒崎真也は五年九月佐渡を巡視した、全国大衆党佐渡支部にては予て其政策と為しつゝある諸税の撤廃等に就て要求書を作成し三十日知事に手交した

農村窮乏打破ニ關スル要求書

現内閣ノ金融誌本家本位ノ政策ハ今ヤ全日本ノ農村ヲ飢餓恐慌ニ追ヒヤリ農村大衆ハ文字通りノ飢餓線上ニ彷徨シテ居ル

貴下ガ巡視ノ為メ三日間滞在中ノ我ガ佐渡郡モ亦不況ノ荒波ニモマレ正ニ大非常時デアル、失業、破産、繭価ノ大下落ヲ尖端シスル全農産ノ大暴落ニヨリ郡民大衆モ亦文字通り飢餓線上ヲ彷徨シツヽアル、而シテ此窮乏ノ主要ナル原因ヲ見ルニ借金重圧、農村資金ノ杜絶、重税ノ負担、高度ノ肥料費、及高率小作料等ニヨルモノデアル、此未曾有ノ疲弊窮乏ヲ其俣貴下ガ恐怖ノ暗ニ放置セスレバ窒息セントスル大衆ハ最後ノ憤激ニ於テ如何ナル事態ヲ惹起センモ計リ難イ、我等ノ農村救済ノタメ、貴下ノ民情視察ノタメノ来郡ヲ幸ヒトシ左記ノ要望ヲ即時実行サレルコトヲ要望スル

一、諸車税ヲ撤廃スベシ

二、失業者救済事業ヲ開クベシ

三、中等学校ノ縮小並ニ高給俸給生活者ノ減俸ヲ断行スベシ

四、縣費ヲ縮小スベシ

五、電灯会社ニ警告ヲ發シ電気料金ノ即時引下ヲ行ハシムベシ

●山本悌二郎の縣支部長重任 [五年十月二十三日]

政友会新潟縣支部にては山口前支部政務次官及津雲代議士を迎へ 五年十月二十三日午後四時より新潟市行形亭に秋期大会を催ふし所属代議士縣會議員其他黨員百余名出席し松木代議士の挨拶ありたる後佐藤友右衛門を座長に推し役員選挙を行ひしに支部長は山本悌二郎重任と決し其他の役員を選挙し議事に入り宣言を決議したる後、津雲、武田兩代議士の現内閣打倒の演説ありて大に氣勢を揚げて閉会した

●佐渡政友倶楽部の秋期大会 [五年十月二十三日]

佐渡政友倶楽部にては五年十月二十三日午後二時より新町行形亭に於て秋期大会を举行せしに出席百余名 嵐城幹事長開会の辞を述べて座長に齋藤長三を推し会務の報告を為したる後議事に入り宣言、会則改正等を決議して役員の変更を為し最後に縣支部特派員縣會議員 相沢成治登壇し中央政界より縣政界の状況を報告し更に現内閣の秕政を痛論し國民の爲めには是非此不景氣内閣を打倒せざる可らずと絶叫して大喝采を博して降壇し大会終了後は出席者全部の大懇親会を開き政談に花を咲かせて以上なる盛会裡に八時宴を閉じた

宣 言

現内閣組閣以来已ニ一年有半其為ス所悉ク當ヲ失ヒ秕政暴政相踵デ國家民人其行ク処ヲ知ラズ、併モ現内閣ハ遂ニ茫然手ヲ拱いて座視スルニ至ル、憲政布カレテ以来劣悪無能未ダ現内閣ノ如キヲ見ズ、曩ニ緊縮節約ヲ唱フルヤ先ヅ範ヲ國民ニ示サンガタメ官吏減俸ヲ行ハントシタルモ一部論者ノ反撃ニ逢フヤ直ニ之ヲ翻シ、次デ議會ノ協賛ヲ經タル歳計ヲ濫リ變更スルコト実ニ三度、弥繼百端、遂ニ及バズ、更ニ金解禁ノ暴挙ニ至リテハ物価ノ參落底止スル所ヲ知ラズ 期年ニシテ國富ヲ失フコト幾百億、此間巨富ヲ擁スル資本家独り榮ヘテ中小農工商悉ク倒レントス、都市ニ失業者群出シテ危説横行シ農村ハ萬古未曾有ノ農作ニ合シテ却テ米價低落ノタメニ産ヲ破ル、此間政策ノカニヨリテ民ヲ救フモノツモ存セズ

更ニ國家ノ存立ト國民ノ榮光トヲ賭シテ失敗シタル ロンドン會議ハ成果ニ至ツテハ其目的トスル減税ノ実ハ甚ダ稀ナラントシ、外徒ラニ英米ノ鼻息ヲ窺ヒテ屈辱外交ノ名ヲ留メ、内國民ヲ欺瞞シテ國家百年ノ憂ヲ蔽フニ汲々タルノミ 今ヤ國民挙テ現内閣ヲ呪詛シ政策ノ轉換ヲ免ル能ハスンバ其更迭ヲ望ムヤ切ナリ 併カモ政策ノ轉換ヲ彼レヲ求ムルハ木ニヨリ魚ヲ求ムルニ等シ、爰ニ於テ國家民心ヲ救フノ道ハ唯單ニ現内閣ヲ倒壊シ、我党ガ天下民衆ヲ率イテ為政ノ局ニ當ルコト則チ是レノミ、同憂ノ士希クハ速ニ來リ相携ヘテ此大道ヲ直進セシ、敢テ此处ニ宣ス

改正会則ノ大要

一、中央集權ヲ排シ地方分權の施設トシテ主義方針ノ徹底ヲ期シ 各種問題ニ對スル意見ヲ統一シテ事務ノ敏掉ヲ図ルタメ左ノ機關ヲ設ク

イ、本郡ヲ分チテ左ノ七区域トス

第一区、外海府、高千、金泉、相川、二見（五ヶ町村）

第二区、沢根、河原田、八幡、二宮（四ヶ町村）

第三区、金沢、吉井（二ヶ町村）

第四区、新穂、畑野（二ヶ町村）

第五区、真野、西三川、小木（三ヶ町村）

第六区、羽茂、赤泊、松ヶ崎、岩首（四ヶ町村）

第七区、水津、河崎、兩津、加茂、内海府（五ヶ町村）

ロ、總裁制度左ノ如シ

総務七名、各区一名選出シ、互選ヲ以テ常任総務一名ヲ置ク

幹事七名、上ニ同ジク、互選ヲ以テ幹事長一名ヲ置ク

会計及代理者各一名、 総裁ノ囑託トス

相談役若干名 同 上

評議員二十五名 各町村ノ選出トス

二、庶務、教育、勸業、土木等ノ調査部ヲ設ケ各部ニ主任及委員ヲ置ク

主任一名、 総裁ノ囑託トス

委員七名 各区一名ヲ選出ス

ホ、各町村ニ支部ヲ設ケ左ノ役員ヲ置ク

支部長一名 其町村ノ選挙トス

幹 事一名 同 上

商議員若干名 同 上

二、経費ハ有志者ノ寄付金ト一定ノ部費（一人一ヶ年十銭）ヲ部員ヨリ徴収シテ之ニ充ツ

三、従来ノ部員ヲ精選シ更ニ健全ナル部員ヲ募集スルコト

四、革新党、農政革新会、二峯後援会、等ノ会員ニシテ本倶楽部ト等シキ主義、方針ヲ

有スル者ニシテハ入会ヲ懇請スルコト

役 員

第一区 総務、石井佐助 幹事、加藤源太郎

第二区 同、 白木栄作 同、 加藤作太郎

第三区 同、 伊藤清右衛門 同、 永野三吉

第四区 同、 中川熊蔵 同、 末武直吉

第五区 同、 本間乙吉 同、 金子都介

第六区 同、 葛西 肇 同、 外内周蔵

第七区 同、 柴田 繁 同、 樋口吉次郎

幹事長、 金子徳次

相談役 齋藤長三、高野宏策、名畑清次、嵐城治作

神主甚久郎、本間瀬平、寺島善四郎、北脇満三

村岡幸蔵、森守蔵、北条欽、鈴木芳太

本間茂太郎、鳥井嘉蔵、余呉富太郎、佐藤嘉十郎

須藤茂三郎、甲斐二十四郎、中川十左衛門、吉田久満次

北利三郎、後藤惣作、矢部茂作、梶井五郎左衛門

藤谷善蔵、平越宇吉、大辻国蔵

●山本、政友倶楽部総裁の辞任 [五年十月二十八日]

五年十月中旬 山本悌二郎は佐渡政友倶楽部の更正を望み 且つ後進の途を開くがために佐渡政友倶楽部の総裁を辞さんとするの意志を表明した事があつた、爰に於て倶楽部にては二十八日新町行成亭に総務会を開き協議の結果、本倶楽部も更正の必要を認め 去る秋季大会に於て会則を改正し役員の新陣容も整へたることなれば之を諒として辞任の意志を翻されんことを懇請する為めに委員を上京せしむることゝし金子徳次、中川熊蔵の兩人を推薦したれども兩人共事故を以て辞退せしかば更に名畑清次、柴田繁、伊藤清右衛門の三人を上京せしむることゝした

三人は上京の上 山本総裁に面会して本郡及本倶楽部の情勢等を委口陳述したるに山本も別に他意あるに
あらざれば委員の陳述を聞き快く翻意することゝなりたれば十一月二十五日午後三時より新町行形亭に
委員会の報告会を開き 委員より交渉頗る順調に進み結局辞任を思ひ留まりたる旨の報告ありしを以て今
後一層の結束を固ふして多難の盛會に勇往驀進することを申合はせたる後 常任総務には互選を以て左の
通り決定散会したり

常任総務 柴田 繁

●政友倶楽部の役員追加 [五年十二月二十四日]

佐渡政友倶楽部にては役員を追加及縣代議員の必要を感じ之れを新設の爲め役員会を五年十二月二十四
日 新穂六丸亭にて開催して左の通り決定した

一、総務三名増員、本間瀬平、嵐城治作、名畑清次

一、相談役の追加、伊藤亀太郎、児玉茂十郎、森一郎

高屋次郎、中川伊右衛門、本間琢斎、本間信太郎

小菅鉄五郎、伊藤円蔵、水谷松次、甲斐勝蔵

最上與六、渡辺茂次郎、大地栄蔵、臼杵寿八

藤井豊丸、古城哲太郎、佐藤貞市、小池竜蔵

坂野大蔵、市橋 寛、金子吉太郎、榎武右衛門

水本五八、小杉伊之助、椎亀次、小瀬川鶴蔵

後藤孫太郎、山形寿作、葛原吾市、坪根舒治

野口成吉、福井治作、佐藤角蔵、白井清太郎

金田音松

昭和十八年十一月一日

(非売品)

新潟縣佐渡郡二宮村大字石田八十四番戸

著作兼印刷発行者

齋藤長三